

野川(東京都)

田代絵麻

野川…若い頃育った所の近くを流れている川

私は生まれてから小学校に上がるまでの約7年間を東京都国分寺市で過ごした。自宅の目の前には殿ヶ谷戸庭園があり、毎日のように母親と足を運んだ。お気に入りにはたくさんの鯉が泳ぐ池で、そばの石の上から鯉の動きを飽きもせずずっと見ていたことを覚えている。池は湧水でできている。あるとき、駅前に建設予定のマンションが地下の水脈を邪魔して、池の湧水が枯れてしまうかもしれないということで住民の間に建設反対運動がおこり、若い私も母親と一緒に駅前でピラ配りをした。原因をつくったビルの建設現場に向かって「大嫌い！」と叫んで、母にたしなめられたこともあった。子どもながらに、池に住む生き物たちが死んでしまうのがとても心配だった。結局、マンションは計画どおりに建設された。池の水が枯れることはなかったが、水量が減ったときいている。もうひとつ、赤ん坊のころから毎日のように親に連れられていったのが、国分寺跡とお鷹の道である。いずれの水脈も野川につながっている。



現在の姿

今回このレポートを作成するにあたって、約14年ぶりに野川を訪れた。川岸には、たくさんのカモの姿があった。日向ぼっこをしているようにじっとしているものや、餌を与える散歩姿の男性の後ろを追いかけるカモの一団にも出会った。水は予想以上に澄んでいて、小さな魚の群れも見えた。最も印象的だったのは、野川が自治体の手厚い管理を受けていたことである。川にゴミはほとんど見当たらず、私が訪れたときには取水堰の補修工事がなされていた。川に沿って歩道が整備されており、散歩を楽しむひとや、保育園児らしい幼児と先生たちが自動車や周りを気にせずに遊んでいる姿もあり、人々が川を身近に感じていると思った。上流のお鷹の道も、以前と同じように澄んだ水が流れ、市の職員らしき人々が回りの植物や木の手入れをしていた。

川との関わり

国分寺に住んでいる間、晴れている日は毎日のように、母親に連れられてお鷹の道や野川に行った。水の脇を走りまわり、よく裸足になって川の中にも入って遊んでいたそう。川沿いにある原っぱでお弁当を広げて、何時間も過ごしたらしい。お鷹の道には、

錦鯉が放流されていて、ずっと眺めていた。野川には、母の記憶では、その当時カモは見なかったようだ。

30年前の川の様子

私の父の友人で、戦後、父親の代から獣医として野川の近くに住んでいる木村さんに話を聞いたところ、「20年前は今とほとんど変わらない」という意外な答えが返ってきた。40数年前には大きな氾濫があり、再び氾濫が起こったときのために、橋の両端に水を堰き止めるガードが作られたが、その後氾濫がおこることはなく、ガードは今では錆びついてもう動かないのではないかと、ということだった。実際にそのガードを見たが、木村さんの説明がなかったら見過ごしてしまっていただろう。再び氾濫が起こらなくなった理由は、下水の整備にあるという。戦後、高度経済成長を経て、川には生活排水が垂れ流されるようになった。その結果、水は青緑色になり、汚い水藻が浮いて、まるでドブのようになってしまっていたという。少年であった木村さんたちは、川の欄干を渡って遊んでいたらしい。川はドブのごとく汚かったので、スリル満点だったという。その後、1980年代後半に下水整備がなされ、水質は飛躍的に改善した。ところが、地上に新たに大きな建造物が建設されたことで水脈が乱れ、川の水量が減ってしまった。開発は水を汚すだけでなく、その流れにも影響を与えることを知ることができた。

野川についてのWeb-site

インターネット上で「野川」と検索すると、一番に現れたのがWikipediaであった。ここには野川の地理・歴史・支流・橋梁について書かれており、情報量は豊富である。野川に関する外部リンクも敷かれていて、『郷土学習資料ハケ<国分寺崖線>と野川』、『野川の生き物』、『「野川」川とあそぶ』、『野川とハケの森の会』、『野川ほたる村』という以下のWeb-siteが見つかった。

郷土学習資料ハケ<国分寺崖線>と野川

このサイトは三鷹市教育センターによって作成されたもので、野川の「自然」、「人とのかわり」を、写真をメインに紹介している。中でも興味深かったのは、水の干あがった野川の写真だ。ショックだった。戦後、家庭排水が流れて汚された野川の姿を伝える新聞記事の切り抜きも印象的だった。

野川の生き物

このサイトは、東京都建設局が行った生物調査「河川水辺の国勢調査」の結果の一部である。その川に（周辺に）どんな生き物が生息しているのかを知ることができる。野川には、なんと228種の植物が生息しており、中でも水生植物が豊富に生育しているとのことだ。だがこのデータは1999年当時のものであるので、近年どのような生態系が存在するのか気になった。

「野川」川とあそぶ

個人が作成したもので、野川の歴史、生き物、写真記録、さらには野川紹介ビデオなどをみることができ、作成者が実際に目でみて感じた野川の姿がいきいきと描かれている。この人物の野川に対する熱い思いが伝わってくるサイトである。

野川とハケの森の会

同名の団体（現在会員数100名）が運営するもので、団体の活動内容やイベント情報などが記載されている。彼らの懸念材料として、現在東京都によって検討されている外環道路計画がある。また、宅地開発等で湧水量が減り、夏には湯水に見舞われることもあるそうだ。私が幼いころ経験した、殿ヶ谷戸庭園の被害を思い出した。

野川ほたる村

このサイトは、「野川流域にホテルのすめる豊かな自然環境を取り戻そう」という趣旨で設立された同名団体の運営するサイトである。彼らの最近の活動報告などが記載されている。

その川がどんな存在であってほしいと思うか

久しぶりに野川を訪れてみて思ったことは、「川の近くに住めたらどんなにいいか」ということだった。水の音を聴くだけで気持ちが落ち着いてくる。川があることで、周辺の空気が違ってくるような気がする。現代人は、毎日、時間に追われている。効率よく物事を進めることが優先されて、精神的にも余裕がない。不安を抱えて生きている人は多い。都会にあっても、川が近くを流れていれば、ほっと休ませてくれる場所になると思う。また、川を汚さずに守っていくために、人々は環境問題を考え、知恵や力を出し合うことが必要だ。そうすることで、人々の間に連帯感も生まれると思う。

野川が、これからも、人々の憩いの場であり、そこに集まる人々を結びつける存在であってほしい。

参考資料

郷土学習資料ハケ<国分寺崖線>と野川

<<http://www.education.ne.jp/kyoiku-center-mi/river/>>

「野川」川とあそぶ

<<http://goodshepherd.ojaru.jp/>>

野川とハケの森の会

<<http://www.ne.jp/asahi/nogawa/hake/>>

野川の生き物

<<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ikimono2/ikimono/no/no.htm>>

野川ほたる村

<<http://www.nogawa-hotarumura.org/>>

Wikipedia

<[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8E%E5%B7%9D_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8E%E5%B7%9D_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))>